

といふ人居住をし之といふは旧記あり
是も隄木の跡今にあり又是も安徳屋
堀といふあり上吉の安徳もや又中吉の安
徳もして多海三弟宗任の跡もや村民
当村番人の居所を此處といふ安徳の下なる
が由に古唱へる詞の跡傳るもや上役一
人下役二人語り是より是を誰の旅人果
出入の恥を改む之村方にも蓋は一人數ハ二
人宛添敷を置く

一菅野館

吹浦村と丸子村の間にあり往古の事ハ詳
かなをも壬午西風ハ砂を吹立堀形も埋れ
今ハ僅沙まり壬代のまは石垣無き事蓋
と云ふとも又菅野大膳といふ人居住し
たり是れは菅野の事ハ大社考に記し傳れ
ハ田舎之民が圖象傳二ハ是に記曰上杉憲政皆
弱しして軍政を渡り菅野大膳上杉玄庵
木の臣辨偽しして就ハ諍ると云く羽源記
十ハ是に酒田城合戦の条下に其に酒田乃
城より上杉玄庵より川村玄景志田修理卿